

○西方寺さいほうじ 〔三郷の内にあり。久寿年中如によ一上人の開く所なり。本尊阿弥陀仏は定朝の作にして、坐像二尺余なり。又如一上人自作の像あり〕

○三福寺さんふくじ 〔同所にあり。開基は興聖菩薩にして、本尊は薬師仏、坐像三尺一寸、作は詳ならず。興聖菩薩は一生の中五百寺を造営して、自一基の卒都婆を立給ふ、今当寺にあり〕

神牛石 〔此所にあり、黒色にして形牛の如く、天下に凶事あらん時は必汗を流すといふ〕

○浄福寺じやうふくじ 〔佐山にあり。本尊観世音は安阿弥あみの作にして、立像二尺許〕

○薬蓮寺やくれんじ 〔林村にあり。本尊薬師仏は定朝ぢやうてうの作にして、立像三尺三寸〕

神劍 〔此寺にあり、男山をとこより伝来する所なりと、三条小鍛冶てうごが作、長九寸五分〕

獅劍しのけん 〔此寺にあり。寛正年中修補を加へて年号をしるす〕

○安楽寺あんらくじ 〔右同所にあり。本尊は薬師仏、四尺二寸、作詳ならず。此寺は後ご二に条院てうのゐんの母后ぼこう西花門院せいけもんゐん基子公の本願なり〕

興聖菩薩殺生制誠塔婆こうしやうぼさつせつしやうぜいかいのとくぱ 〔佐山東の口にあり。今土中に圧れて現る所少方纔なり〕

指月塚しげつづか

〔大久保おほくほの巽ひらかは、平河村民家ひらかはの東南とうなんにあり。いにしへ此所に月見の樓ありし所なりとぞ。封地今なほ高壇なれ

ば土人塚どじんづかと称す。惣じて此ほとりはいにしへ官家くわんけの住居なるや、所々に輕からざる字多し、後人考へあるべし。○城村しろ

の中に字あり。○政所まんどころ、城のひがしの字なり。車塚くるまつか、同所のひがし大和街道の東方にあり、形南北に通つて丘のごとし、

是官家送葬くわんけそうざうの時車を蔵る所なりとぞ。又同じき街道の西に大なる塚あり、是則ち葬埋そういんの塚なるべし、由縁詳ならず〕

鴻島こうがしま

〔塚をいふ、車塚くるまつかの子丑こしの間にあり〕

梶塚かぢづか 〔車塚くるまつかの北きたにあり。惣じて此辺に塚多し、土人どじん曰、寛文年中に田間より長五尺余の骸骨を掘出せしとぞ、其外朱

沙多くありしとなり〕

久世神社くぜのじんじや

〔大和街道やまとかいだう久世くぜの茶店のひがし一町余山上にあり。延喜式神名帳に載たる久世神社くぜじんじや是なり。又万葉集に人

丸が咏し、山城の久世のやしろの草な手折そといふも此やしろと見へたり〕

三田坂みたざか

〔久世くぜの南十四五町ばかり大和街道やまとかいだうの中にあり、此所寺田領てらだりやうひがしの端なり。一説には水戸坂みとざかといふなりと

ぞ。延喜式に、久世郡水戸神社みとのじんじやあり、此号を以て号る歟。則寺田村てらだの天神宮てんじんぐう是なるや、後人考あるべし〕

久世鷺坂

〔久世のひがし山上にあり。仙覚抄に曰、鷺坂久世郡にありと、是則古への大和路なり。むかしは宇治橋

の西より末の方直にして此路に出て、大和街道に到りしなり。今の道は秀吉公の御時開く所なり。久世の鷺坂山原野な

ど古人和歌に詠ず〕

御集

雪ふれば皆をしなべて白妙の鷺坂山の松も残らず

後鳥羽院

元久三年宇治の御幸に野薄をよめる

夫木

山城の久世野の原のしのす、き玉ぬきあへぬ風のしら露

定家

小笹峯

〔同所と見へたり、今詳ならず〕

堀川百首

白鳥の鷺坂山をこえくれば小笹が峯に雪降にけり

顕季

長池旧址

〔長池村民居の東北二町許山の麓にあり。池の形南北三町余東西二町許と云々。今堙で田となす、小水遺

れり。伝云、昔此池悪蛇ありて人を害す、此辺の人民これを愁て諸神に祈る。ある時化人來りて遂に此蛇を斬て泰平を

なす、かの蛇の尾の中に劍あり、是を採て大和国布留社に納むと云々。今布留劍と号て神宝あり〕